

令和6年度船橋小学校運営組織からの回答書

令和5年度船橋小学校学校関係者評価委員会による令和7年1月31日付「令和4年度学校関係者評価委員会提言書」により提言された11項目について、本校教職員による学校運営組織からの回答を下記のとおり取りまとめる。

記

	提言	部会	担当	回答
1	学習指導のに関する領域はおおむね良好で、児童教員に積極的な取り組みがある。協働型授業やICT利活用などの新しいアプローチに関しては、保護者との理解・認識の共有が欠かせない。	研究推進部	教科外	協働型授業やICTの活用に関しては、学習発表会において、一方的な発表のみから各教室における発表等、保護者、地域の方との双方向的なやり取りが行える発表会を開催する。
2	生活指導に関する領域は、概ね良好。一部学年差もみられ、改善を要する点もみられる。	生活指導部	教科外	生活指導方法について学校全体で、共有し指導力の向上を図る。 学校行事を充実させたり、個人面談の機会を増やすなど保護者や地域の方と連携する機会を増やしたりすると共に保護者アンケート、児童への学校生活アンケートを元に保護者と連携を密にする。 日々の学校生活においても、教員が児童からの聞き取りのや保護者連絡を心がけていく。
3	学校行事の領域は評価平均も高く良好である。	行事部	教科外	前年度の学校行事に関する保護者アンケート結果を基にして、より充実した学校行事を実施する。
4	キャリア教育の領域は、無回答傾向が強く、各教科で扱われている場合などでも、児童・保護者にその位置付けやつながりを示すことが必要であろう。	教務部 特別活動部	教科外	総合的な学習の時間や生活科における活動が、キャリア教育として伝わるよう、HPに掲載する。たてわり班活動・船っ子まつりなどで振り返りを行い、振り返りカードにキャリアパスポートの型を活用できるようにする。
5	教職員の領域には大きな特徴がないものの児童・保護者評価で学年差がみられることは、留意が必要。	教務部	教科外	学年差が生じないように学校全体における教職員研修、校内研究、指導教諭模範授業への参加等を生かして指導の改善を行う。
6	全般の領域では、学び舎に関する項目で無回答が多く、防災や交通安全などで学び舎の枠組みを有効に活かし地域との連携を図る可能性もあり、そうしたモデルの検討が必要である。	教務部	教務	学校行事や学校公開、保護者会、ホームページへの掲載など情報提供の機会を継続するとともに学び舎関連の情報提供も意識的に行う。
7	情報共有の領域では、特に問題は見られない。アプリを活用した連絡や広報についての要望が出てきている。	教務部	教務	学校の重点目標や学校だよりのホームページの掲載を継続するとともに、学校協議会など地域と方に学校の方針や様子を伝えたり、意見をうかがえたりする機会を増やしていく。
8	学校運営の領域については、概ね良好であり、大きな問題はみられない。学校の重点目標については、告知や振り返りの工夫が必要である。	教務部	教務	学校重点項目については、ホームページに掲載すると共に、校内掲示、保護者会、学習発表会等で伝え、教員間では、振り返りの機会を設ける。
9	家庭学校連携の領域の項目は、大きな問題はない。スマホを前提とした告知・連絡が求められることから、教育委員会においても、「すぐーる」を中心とした運用の妥当性や改善点などの検討を求めていた。	教務部	教務	「すぐーる」やホームページの有効活用を進める。 SNSの利用を検討していく。
10	地域連携の領域としては、無回答が多いことを除けば、概ね良好な結果が得られた。無回答に関しては、アンケート依頼時に地域連携のあらましや履歴を紹介するなどの工夫で改善が期待できるのではないか。	教務部	教科外	地域連携活動について、学校公開や学習発表会、ホームページなどで伝えていく。
11	安全性の領域については、概ね良好であった。通学時の安全確保については、保護者・地域の協力があって成り立つものであり、学び舎の枠組みで検討できることがあると思われる。	生活指導部	教科外	学び舎の枠組みでも連携を図り、通学時の安全確保について検討し、実行を進める。